

本郷台中だより

学校だよりNo.4
令和3年5月31日
文京区立本郷台中学校
校長 齊藤 正富

マスク越しのコミュニケーション

～一人一人の目をしっかりと見つめて～

主幹教諭 藤本 丈

新型コロナウイルス感染症は、5月下旬、都内の累計患者数が15万人を超えるなど感染拡大の勢いは衰えていません。新型コロナウイルス変異株の感染力の強さや、生徒の年齢がワクチン接種対象でないことから、学校では感染症対策に一層力を注ぎます。マスクの着用、手洗い・手指消毒の励行、三密防止、マスクを外すときの行動徹底（給食時の黙食）等です。自らの健康を適切に管理し、周囲への配慮を心掛け、生徒が互いに協力しながら学校生活を送る姿に感謝しながら、我々教職員は生徒の学びを止めないようにしっかり教育活動に取り組んでまいります。保護者の皆様にも、毎日の体温測定や健康観察、ご家庭でのうがい・手洗いの励行など、引き続きご協力をお願いいたします。

コロナ禍において、この感染症に対する正しい知識と感染された皆さんやその周りの方々、そして医療従事者の皆様に対する正しい認識を図ることも大切な教育活動だと思っております。そして、生徒の学びを保証し、学校生活の充実を求める声に応えるためにも、今後も学校行事を簡単に中止するのではなく、感染症予防を徹底しながら創意工夫して実施する方法を模索していきたいと考えています。地域の皆様、保護者の皆様のご協力をよろしくをお願いいたします。

私は、生活指導主任として4月から正門で朝の挨拶活動を行っています。下を向いて視線を合わせず、「おはようございます」と挨拶を交わす生徒もいれば、私の前でしっかり立ち止まって、私の目を見て挨拶を交わす生徒もいます。朝の挨拶一つでその時の生徒の心の様子が分かります。相手の目を見てきちんと挨拶する姿を見るたびに、清々しい気持ちになります。挨拶は、心と心をつなぐ言葉です。生徒がしっかりと顔をあげて、相手を見て挨拶する姿が、学校のあらゆる場所で当たり前に見られるようにしていきたいと考えています。ごく自然に挨拶が交わされる環境の中で、声の出ない生徒や下を向いてしまう生徒も次第に気持ちの良い挨拶を交わすことができるようになってほしいです。

さて、正門で挨拶を交わす生徒の顔には、様々な形や色のマスクがつけられています。いつの間にか、マスクが当たり前の存在になっていました。言うまでもなく、我々教職員は、生徒の表情を伺い、読み取りながら授業を進めています。眉をひそめたり、唇を尖らしたり、頬を緩ませたりなど、表情は学習の理解度を確認する上でも重要なバロメーターです。しかし、コロナ禍におけるこの1年、生徒の表情を読み取ることができなかつたり、こちらの感情が伝わりにくかつたりすることは、我々にとって大きな戸惑いです。「目は口ほどにものをいう」や「目は心の窓」とも言われますが、我々が生徒一人一人の「目」をしっかりと見て、生徒の気持ちを想像し、また我々の思いが生徒たちにも伝わるように、目に力を込めて授業を行うことが必要だと思います。マスク越しでも、相手の目をしっかりと見て、抑揚をつけて話すことで、互いの思いを伝えることができるはずです。毎朝の挨拶活動の中で、私も声だけでなく、生徒たちの「目」をしっかりと見て、挨拶を交わしていき、心と心をつなぐコミュニケーションが自然とできる学校にしていきたいと考えています。

【学校行事の変更等について】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う「緊急事態宣言」の発令再延長に伴い、予定されていた学校行事の日程等について変更がございます。詳細については、本日記布の「本校における新型コロナウイルス感染症拡大予防対応について（その6）」をご覧ください。